

# 第2回 高2英語

## 総評

今回の試験では、リスニング、語句整序、和文英訳、自由英作文、長文読解といった多様な出題により、受験者の総合的な英語力を測ることを目的としている。今回の結果を見て、自分の得意な分野と苦手な分野を把握し、的を絞った学習計画を立てられるようにしたい。

また、総得点だけでなく、大問ごとの出来や、誤答の内容も把握してほしい。特に作文問題や、長文問題中の記述形式の問題などは、一朝一夕に得意になる分野ではないが、大学入試に向けて必ず実力をつけなければならない部分である。模範解答と解説をよく読み、自分の答案に足りなかった部分や工夫できる点を見つけるようにしよう。

## 問題別講評・採点基準

### 1 リスニング

リスニングでは必ず放送前に設問に目を通し、メモを取りながら音声を聞くようにしよう。

#### 問題A

(1) 誤答としてはbとdが多かったが、創立されたのと校舎が建てられた時期がずれていることに注意して聞き取りたい。(4) 誤答ではbが多い。メアリーは a play and a rock band と言っているが、ケンジの最後の発言ではバンドの演奏が先にあることがわかる。複数箇所の情報を組み合わせて判断しよう。

#### 問題B

Part 1 (1)～(3)は比較的よくできている。

(4) 質問文には How did Kenji feel …? とあるが、模範解答のように miss を使って答えられた解答は少数だった。また、when he came back to hot and humid Japan とあるので、読み上げ文でもこの表現が使われた前後に注目したい。読み上げ文の最後に「またカナダに行きたい」とあり、この部分を含めた解答が散見されたが、ここでは質問文をふまえて、気候を中心に答えることに注意しよう。

Part 2 スペルミスの減点は各ー1点であるが、その他の単語の抜けや単語の誤りは配点分の減点とした。(ア)では harder という比較級にできなかった

もの、harder に引かれて from でなく than と書いてしまったものなどが見られた。(イ)では backgrounds を2語に分けてしまったものが意外にも多く見られた。また、前置詞 from は弱く発音されることに注意しよう。苦し紛れに who としている答案もあった。ディクテーションでは一般的に a, of, the のように弱く発音される単語を聞き逃さないことに加えて、自分の解答が文法や語彙の知識に照らして誤りがないか確認することに注意したい。

## 2 語句整序・和文英訳

### 問題A 語句整序

英文中の整序問題で日本語も与えられていない。前後の文脈に合わせて、与えられた語句から文を作り上げることができるかどうかを見た。

(1) (2) は比較的よくできている。(3) 2つの動詞を逆にしたウ→オ→エ→カ→ア→イだと 'Marmalade' means 'marmelo', which drives from (quince in ~) となるが、これでは『「マーマレード」というジャムそのものが『カリン』という果物を意味する』ということになり、直前の文の「マーマレードはカリンから作られたジャムを意味するものだった」と矛盾してしまう。(4) 冠詞 the が付くのは amateur marmalade makers ではなく、「コンテストの出場者」という意味で限定される competitors の方である。

### 問題B 和文英訳

「スマートフォンを利用した旅行」というテーマでの出題。減点された部分を必ず見直し、同じ間違いを繰り返さないようにしよう。

① 「どんな情報でも与えてくれるスマートフォン」は、解説にあるように、制限用法の関係代名詞で書くと、そうでないスマートフォンもあるような印象を与えるので、コンマを打って非制限用法にすることがポイント。「～にとって代わる」は replace ～ や take the place of ～ を知らないといけない。また take place では「物事が起きる」の意味の、別の熟語になるので区別して覚えよう。「～の代わりに…が情報を与えてくれる」と読み換えてもよい。

② 「できるだけ多くの～」では 'as 形容詞+名詞 as' の語順の間違いが散見された。× visit many popular places as many as possible などとしないよう注意しよう。

③ 「解答」のように you can enjoy ～ の形で表せ

ていた解答も少し見られたが、ほとんどが「旅の醍醐味」を主語にして表していた。「事がうまく運ばない」は「計画したように物事を行えない」のように読み換えたものの、英語として不自然な表現が目立った。日本語の字面にとらわれず、訳しやすい日本語に直してから英訳する姿勢を保ちつつ、基本語を用いて簡潔に表現できるようにしたい。

### 3 自由英作文

文法・語彙点と内容・構成点の2つの観点に分けて採点した。指定語数に対する不足・超過については、5点の減点。ただし、指定語数の下限の半分(25語)未満のものについては、文法・語彙点を与えていない。

○文法・語彙点 ……10点

誤りの数に応じて、10点、8点、6点、4点、2点、0点のいずれかの点数をつけている。

○内容・構成点 ……10点

内容に応じて、10点、7点、4点、0点のいずれかの点数をつけている。以下のような答えは内容・構成点の減点対象となる。

- ・賛成・反対の理由の説得力が欠けるもの
- ・賛成・反対の論旨に一貫性がないもの

賛成意見としては「勉強時間の確保」「休息や自由な時間に充てるべき」、反対意見としては「まとまった練習時間の確保」といったように具体的に根拠を示している答案が多かった。同じ内容を繰り返すだけでは主張の説得力に欠けてしまうため、理由は異なる観点から複数挙げると指定語数を満たすのに書きやすかっただろう。

### 4 長文読解

ジョン・ロールズというアメリカの哲学者が書いた書籍を中心に、経済学の初歩的な理論について解説した文章。内容的にはやや抽象的な部分もあるが、人間は現在の自分が置かれた状況をもとに物事を考えがちである、というところは具体例を挙げて述べているので、イメージをつかめたのではないかな。

(1) 倒置構文になっているのでそれを生かして「中心にあったのは…だった」のように訳したいが、この倒置は、強調のためとも文のバランスを整えるためのものとも考えられるので、通常の訳順にしたものも許容した。state は前の部分から「状況」ではなく「国家」と訳す。「発言；記述」という訳が見

られたが、この意味を表すのは statement である。

(2) 誤答では d を選んだ答案が多かった。これは一般的な考え方から選んだのかもしれないが、本文の記述にはなく、ロールズの主張とも異なる。

(5) 誤答では b が目立つが、「必ず」などの断定的な内容を含む選択肢は、本当にそう言えるのか注意深く本文を確認するようにしよう。

(6) d を挙げられた受験生は少なかった。誤答では c と f が目立つ。もっとも面白い内容でも、本文の論理展開との整合性を確かめることが大切。

### 5 長文読解

ペットとしての猫の魅力・特徴について述べた文章。全訳も参照しながら全体の内容を再確認しておくとうい。

(1) 空所①について、yet は現在完了の否定文などで副詞として使われるのを目にするのが多いので、接続詞としての意味を推測しにくかったようだ。

(2) as if …を「たとえ…としても」と訳したものなど、この表現が仮定法だとつかめていなかった解答が散見された。続くSVが省略されている点にも注意したい。

(3) while を「…する間は」と訳した解答が多く、it cannot possibly be sufficient 以下は it を to 以下を受ける仮主語と捉えたものや、sufficient の訳出が不十分な解答が見られた。

(4) この段落の第1文をまとめて含めてもかまわないが、その部分のみに終始したものは不可とした。